

中国四国地区懇話会 2005 年度活動報告

2006 年 5 月 2 日

2005 年度は、以下の 2 つの活動を行った。いずれも 20 名前後の参加者があり、テーマに関連した活発な議論が行われた。

● シンポジウム

タイトル：他者の中で生きる - 人をどう受け入れるか、許しの発達 -

開催日時：2006年2月18日 (土) 14時00分 - 16時00分

開催場所：広島大学大学院教育学研究科 第3・第4会議室

概要： 本シンポジウムでは、攻撃行動、向社会的行動、謝罪行動の3つの研究領域から、仲間関係の中での「許容」にまつわる発達について検討した。まず、畠山美穂氏（鳥取短期大学）から「子どもの攻撃行動に関する許容の程度に関する研究」、樟本千里氏（川崎医療短期大学）から「視点の違いが他者への対応に及ぼす効果 - 向社会的理由による感情表出の発達-」、中川美和氏（宇部フロンティア大学短期大学部）から「謝ったらどんないいことがあるの？ - 幼児が認識する謝罪の意味と重要性-」というタイトルで話題提供があり、その後、高橋登氏（大阪教育大学）と八島美菜子氏（山陽女子短期大学）による指定討論が行われ、各話題提供者の研究に関する問題点が指摘されるとともに、今後の研究の方向が示唆された。

● オープン・ディスカッション

タイトル：アメリカの特別支援教育と指導者養成の現状

- 自閉症スペクトラム支援の現場から -

開催日時：2006年3月18日 (土) 13時30分から15時30分

開催場所：広島大学大学院教育学研究科 第3・第4会議室

概要： 講師としてカザス大学研究員特殊教育の研究と支援に関わってこられた萩原先生をお迎えし、アメリカでの自閉症スペクトラムの支援の現状について話題提供をしていただき、その後、全体で議論した。具体的な内容は、通常学級内での支援は、実際どのように機能しているのか？ 個別支援計画には、教師、専門家、親らがどの程度関与しているのか、またその効果は？ 特別支援コーディネーターはどんな仕事をしているのか？ 等であった。

以上

文責：杉村伸一郎